

令和4事業年度

決算報告書

第19期

自：令和4年4月 1日

至：令和5年3月31日

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

令和4年度 決算報告書

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

(単位:百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	5,703	5,795	91	(注1)
施設整備費補助金	160	143	△ 16	(注2)
補助金等収入	228	330	101	(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	11	13	2	(注4)
自己収入	589	743	154	
授業料、入学料及び検定料収入	465	498	32	(注5)
雑収入	123	244	121	(注6)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,792	2,139	347	(注7)
目的積立金取崩	192	40	△ 151	(注8)
計	8,677	9,206	528	
支出				
業務費	6,485	6,011	△ 473	
教育研究経費	6,485	6,011	△ 473	(注9)
施設整備費	171	156	△ 14	(注10)
うち給排水設備のライフライン再生	160	98	△ 61	
うち長寿命化促進事業	—	44	44	
補助金等	228	330	101	(注11)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,792	1,945	153	(注12)
計	8,677	8,443	△ 233	
収入-支出	—	762	762	

○予算と決算の差異について

(注1) 運営費交付金については、予算段階では予定していなかった授業料等免除枠、特殊要因経費(年俸制導入促進費)及び教育・研究基盤維持経費が151百万円交付されたこと、また予算段階では、債務繰越分59百万円を運営費交付金に計上していたため、予算金額に比して決算金額が91百万円多額となっております。

(注2) 施設整備費補助金については、予算段階では予定していなかった令和4年度施設整備費補助金(長寿命化促進事業)が44百万円交付されたこと、また予算段階の金額よりも交付額が61百万円少額であったことにより、予算金額に比して決算金額が16百万円少額となっております。

(注3) 補助金等収入については、予算段階の金額よりも受入額が多額であったことにより、予算金額に比して決算金額が101百万円多額となっております。

(注4) 大学改革支援・学位授与機構施設費交付金については、予算段階の金額よりも交付額が多額であったことにより、予算金額に比して決算金額が2百万円多額となっております。

(注5) 授業料、入学料及び検定料収入については、主として授業料徴収者増加等が要因となり、予算金額に比して決算金額が32百万円多額となっております。

(注6) 雑収入については、主として学術指導収入及びDSCコンソーシアム収入の増加等が要因となり、予算金額に比して決算金額が121百万円多額となっております。

(注7) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、主として受託研究等の受入額の増加等が要因となり、予算金額に比して決算金額が347百万円多額となっております。なお、決算金額については前期からの繰越金230百万円を含んでおります。

(注8) 目的積立金取崩については、予算段階で予定していた取崩事業が発生しなかったこと等により、予算金額に比して決算金額が151百万円少額となっております。

(注9) 教育研究経費については、主として経費の節減により、予算金額に比して決算金額が473百万円少額となっております。

(注10) (注2)及び(注4)に示した理由により、予算金額に比して決算金額が14百万円少額となっております。

(注11) (注3)に示した理由により、予算金額に比して決算金額が101百万円多額となっております。

(注12) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、受託研究費等の支出が予算段階での計画額を上回ったことが主たる要因となり、予算金額に比して決算金額が153百万円多額となっております。